

日本で育ったタイ代表が東京オリンピック出場により得たもの

深見利佐子¹⁾

What I gained by participating in the Tokyo Olympics as a Thailand judo athlete who grew up in Japan

Risako FUKAMI¹⁾

2021年7月、私は日本武道館の天井を見上げていた。21年間続けてきた柔道を東京オリンピックという夢の舞台上で終えた瞬間だった。オリンピック出場に至るまでの道のりは平坦なものではなく困難の連続であった。しかし、困難を乗り越えたからこそ得られたものは多い。本報告ではタイ代表の柔道選手としてオリンピック出場という大きな目標達成に至るまでの過程とその中で得られたことについて報告する。

私はタイ人の父と日本人の母を持ちタイで生まれた。そのためタイ国籍を有している。しかし生まれてすぐに日本へ移住したため義務教育から大学院での研究に至るまでを全て日本で行った。つまり国籍はタイであるが生活様式や言語は日本人と同様である。現在は筑波大学大学院の博士後期課程世界文化遺産学専攻に所属しており、文化財の保存科学という分野で研究をおこなっている。主に文化財に見られる劣化現象やその原因を解明し、文化財を数十年、数百年先に残していくためにはどのような処理を行えばいいか考える分野だ。このように競技とは全く関係性のない研究分野である。しかし、研究課題を発見し、その要因を解明し解決策を

考えるという研究におけるプロセスと柔道の競技力向上におけるプロセスは類似している。そのため、筑波大学で習得した研究に対する姿勢は自身の競技力向上につながっていたのではないかと思う。

ここから本題に入る。柔道競技でオリンピック出場権を得るためにはいくつか方法がある。一つは①IJF (International Judo Federation) が定めた国際大会に出場し、IJF ランキングの上位14カ国以内に入ることである。IJF ランキングは各国際大会の成績に応じてポイントが付与され、ポイント数に応じてランキング順位が決まる仕組みだ。2つ目の方法は②ランキングに届かない国・地域に対して5大陸ごとに大陸枠 (Continental quota) という出場枠が設けられているためこの出場枠に入ることだ。大陸枠に入るためにもIJF ランキングの順位が重視される。アジア大陸に設けられている大陸枠は男子10枠、女子10枠の計20枠である。今回私がオリンピックに出場できたのは後者の大陸枠出場権を得られたからである。この出場権を得るまでに予想もしなかった出来事や多くの経験を得ることができた。先述したように私はタ

1) 筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻

University of Tsukuba

イ国籍を有していることから日本代表ではなくタイ代表の選手として活動をしてきた。もちろん日本代表としてオリンピックを目指すという選択肢もあったが、日本代表になるということは国際大会で入賞することよりも困難なことである。また日本代表になれない限り、国際大会への出場も不可能となり、オリンピック出場までの道のりは非常に険しくなる。そのため、タイ代表として競技を行うことの方が「オリンピック出場」という目標を実現化できると判断したためタイ代表として活動することを選択した。しかし、現実是非常に厳しかった。タイにおいて柔道という競技はメジャースポーツではなく、認知度も人気も日本ほど高くはなくこれまでに大きな成果を出した成績もない。ゆえに政府から柔道競技に分配される予算は非常に少ない。そのためタイ柔道連盟は年間に数十とある国際大会のうち、2、3大会のみ選手を派遣し、その他の国際大会への派遣を見送ることが多かった。これではIJFランキングを上げるためのポイントを得る機会自体が減少してしまうため、オリンピック出場権を得る可能性も厳しくなることが予想された。そこでポイントを少しでも多く獲得するために自費で国際大会に出場することを決めた。夢のためならば可能な限り使える手段を使うべきだと考えたからだ。タイ柔道連盟は快く国際大会への自費参加を認めてくださったため、国が派遣する国際大会以外の大会にも出場することができた。つまり、国際大会への自費参加によりランキングポイントを獲得するチャンスをより多く得ることができた。そしてこのポイントを少しずつコツコツと獲得していく方法が、私がオリンピック出場権を得るための一番の得策であると考えた。なぜならば私自身が自分の実力をよく知っており、国際大会で表彰台に上がることの難しさを理解していたからだ。表彰台に上がることで大会のレベルにもよるが一度に500～最大2000ポイントを獲得することができる。しかしこの方法は私にとって実行できる可能性は低いと判断し

た。一方で多くの国際大会に出場し、ベスト16～8あたりに入ることで100～最大で約500ポイント得ることができ、この方法でコツコツとポイントを獲得する方が最終目標を達成させることができると判断した。しかし、自費参加のためもちろんコーチや付き人（トレーニングパートナー）は付かず、一人で海外へ渡航し、会場でのアクリディテーションやその他の手続きを行わなければならなかった。改めてこれまでコーチや監督が試合に同行してくださったおかげで選手は試合のみに集中することが出来ていたのだと実感した。しかし、一人で試合に参加することが増えたことで咄嗟に起きたトラブルやハプニングに対して臨機応変に落ち着いて対応できる力を身につけることができた。さらに、試合当日は打ち込み相手を当日会場で探さなければいけないこともあったため、自分から海外の選手に声をかけウォーミングアップの依頼をする機会も増えた。この機会を通して海外チームの監督やコーチ、もちろん選手らとの間に友好関係を築くことができた。これは私一人で試合に参加しなかった限り、得られなかった機会であったと思う。試合当日にも関わらず快く練習に参加させてくださった様々な海外チームには心から感謝しており、今後私が逆の立場になった際は彼らが私にしてくれたと同様に快く受け入れたい。オリンピック出場までの過程において、また柔道を通してこのような素晴らしい経験を得られたことは私の貴重な財産である。そしてこのような経験を積んだ結果、最終目標であったオリンピック出場権を得ることができた。夢の舞台であったオリンピックでは一勝を挙げることはできなかったが、これまでの努力や過程、そして目標を達成することができたことを誇りに思っている。

最後に、オリンピックという大きな目標を達成するまでの過程で学んだこと、得られたことをまとめる。まず①目標達成を実現させる手段を見つけること、そしてそれは自身にとって実現可能な方法であるか良く精査することが重要

であるということ、そして②見出した手段をどのような状況であっても確実に実行する実行力。最後に③臨機応変に対応する能力と国境を超えても通用するコミュニケーション能力を得ることができたこと。以上のことをオリンピック出場までの過程で得ることができた。オリン

ピックを目指すにあたりこれまで行ってきた選択に後悔はなかったと言えるため、この一つの大きな経験は私の人生の中で一つの成功経験であると位置付ける。そしてこの報告がこれから大きな目標を達成させようと努力している人々の参考になれば幸いである。